

## 学生生活と大学の支援について

司会..今日は現役の学生、また就職されてからまだ数年しかたっていない社会人の皆さんに集まっていたくださしました。はじめに皆さんの所属学部などについて教えてください。

Aさん..文学部社会科学科三年です。

Bさん..教育学部二年です。

Cさん..人間科学部健康福祉科学課程二年です。

Dさん..商学部三年です。

Eさん..文学部を卒業しました。

Fさん..教育学部を卒業しました。専攻は情報です。

《大学・学部の志望動機》

司会..ありがとうございます。次にご自分の大学、また学

部を選んだ動機などを教えてください。

Dさん..文学部を希望していましたが、残念ながら落ちてしまいましたので、受かったところに進学しました。

Aさん..自分が将来何になりたいかよく分からなかったの  
で、幅広い分野の勉強ができるところがいいのではないか  
と  
思っていました。結果的には、とりあえずいくつか興味  
のある学問分野を含んでいた社会学を選び文学部を受験し  
ました。

Cさん..私が中学から高校時代にかけて児童虐待のニュー  
スが多かったこともあり、子どもの心理や福祉関係に興味  
をもちました。高校時代では勉強よりも部活などに熱中し  
てしまったこともあり、現役で合格することはできません  
でした。しかしながら後悔したくないという気持ちが強く、

再挑戦して今の福祉関係の学部に進学しました。

**Fさん**..第一志望は残念ながら落ちてしまいました。経済的な理由もあり、後期で受かったところに進学しました。自分の希望と全然違う分野ということや情報関係ということもあり、コンピュータに関するスキルのない私にとつては、最初の頃は授業についていくことで必死でした。

**Aさん**..私も第一志望ではないのです。今の社会学の分野は第二志望くらいでした。

**Dさん**..私も第一志望の文学部とは違いましたが、やるからには、しっかりとやらなければならぬという気持ちはありました。でも最初は簿記や会計などには全く興味がなく苦手意識を感じていましたが、勉強するにつれて興味が出てきました。ただ、将来そちらに進みたいかと言われたら全然そんなことはないです。

**Eさん**..私は文学が好きで、文学を勉強できたらいいと思いい文学部を選びましたが、将来ということを考えては選択していません。

**Bさん**..私の場合は大学の附属学校だったということもあり、それ以外の大学に入学するという選択はあまり考えませんでした。私の周りの生徒たちも他大学を受験する考えはあまり無かったような気がします。他大学を受験する場合は塾に行くという雰囲気でした。でも今と比べてみる

と、附属校から自校の大学に進学した場合、とりあえず有名だからという理由で入学した人のなかには、後になって後悔した人も多いようです。

#### 《大学生活》

**司会**..ありがとうございます。なかなか志望したとおりに進学できないという厳しい現実には、皆さん苦労されているという感想をもちました。では次に、大学生活についての感想をお聞かせください。

**Dさん**..総合的にみたら楽しいと思います。自由期間というか、モラトリアムな部分もあるのかなと思います。それから、人と接する機会がバイトとか、ほかの活動よりも一番多いのは大学時代だと思います。人数だけじゃなく、年代層も含めてです。ただ教授にはちょっと会いにくいという意見もあると思いますが、四〇〜六〇歳から同年代、そういういった多くの人と出会うことができるのは大学ならではの気がします。

**Fさん**..大学で得たものという点、勉強面だけでなく、やはり人との付き合い、付き合い方や仲間が増えたなど、そちらのほうが主ですね。それから、自分についてもよく考えるようになったことです。社会人になってからは、さらに世界が広がったと思います。

**Cさん**..私も一番大きいと思ったのは、いろんな人に出会えたことです。特に面白かったのが、学生が日本全国から集まって来るので、方言やその地方によつての違いなど、あるいはボランティアで頑張っている人などに出会えたことです。こういう人もいるんだとか、いろんな方面で頑張っている人がいることを知ったことは、自分の世界がちょっと広がったという感じがします。

**Bさん**..私も何か見識というか、そういうものが広がったような気がするのです。そういう面でもよかったですと思っておりますし、同じような興味のある友達がたくさんできることも自分にとつてとてもプラスになっています。

**Eさん**..私も出身大学が大きいので、いろいろな人ももちろんいますし、「ああ、こういう考え方もあるんだ」、「こういう文化があるんだ」などと、得るものも多くありました。自分が持っていた世界が広がるというのは、私も共感するところですね。それに「それで、あなたはどつなの」「あなたはどつのように思う」というふうに自分の意見をすぐく聞かれるようになったと思います。

例えばレポートを書くにしても「私はこう思った」、「私はこういう考え方を持っている」などを書かなければなりませんし、就職活動でも「私はこういう仕事がいい」、「私はこういつことを考えているので、こういうふう

えてここが良いと思っているんです」と言わなければなりません。卒論もそうです。とにかく「私はこうなんです」というのを訓練した「場」だったのではないかと思います。卒業してから強く感じました。ただ、社会に出ると必ずしも自分の意見を求められないときがあります。この点は、学生と社会人ではちよつと違う感じはします。

**Fさん**..私もそう感じます。大学時代では、自分を中心として、どうなったのかということが求められていると思います。社会人になると、自分の意見は求められなくなりました。挨拶も自分からしないと全くかけてくれない状況もありますので、自分から挨拶をするよう心がけています。でも、たまには向こうから声をかけてもらいたいという甘えもありました。

#### 《キャリア形成・進路選択》

**司会**..皆さんの話を聞いてみると、大学とはなんと楽しい所かという気分にはさせられますが、実際はそれだけではなく、いろいろ悩むことも多かったんですね。さて、次にインターンシップなど自分のキャリア形成や進路選択などの際に役に立つようなことを何かしていますか。

**Dさん**..今年、インターンシップに参加しました。大学が

実施する進路指導やキャリア形成支援の中で、インターンシップというプログラムは本当に大きな意味を持ったと思います。インターンシップは就業経験を積むためにするもので、就職したい業種でなくてもいいのですが、自分が進みたいところを狙ってインターンシップを希望する人が多くみられるように感じます。また、本当に興味のあることがまだ見つからなかったとしても、インターンシップに参加して学ぶものはあると思います。今までの興味と全然違う分野を体験することが活性剤になりうるので、特にインターンシップはいい機会だと思います。

**Cさん**..私のサークルの話ですが、就職ということでは、四年生の先輩は今就職の面接・試験を受けている最中なので、まだ詳細な情報は入ってきません。今、私は二年生ですが壁にぶつかっていることがあります。それは自分は福祉系に向いているのか、よく分からなくなってきたという事です。やはり、好きということだけではやっていけない仕事だと思っています。それで、今は実際に自分が動いて経験しないと分からないので、とりあえずいろいろな分野に働きかけて行こうと思っています。

**Aさん**..私の高校は中高一貫で、中三ぐらいからキャリア教育というか、自分がどういう道に進みたいのかということを考えてもらえる機会がありました。いろいろな

みましたが、これで本当に良いのかなという感じでした。そんな体験から、音楽療法にはすごく興味があります。この分野でやっていけるのだろうかと考えてしまいましたが、

大学で学ぶのは、やはり理論が中心です。一応体験、実践などがありますが、現実の社会で実際に接するというのは、やはり違うことだと思います。

**司会**..進路選択の相談は主に誰としますか？

**Dさん**..サークルの仲間ですね。私が入っているサークルは大学も学部も違う学生で成り立っているサークルです。そのサークル仲間の中では、自分の将来を話し合うこともあります。大学や学部に関係ない仲間の話が与える影響はかなり大きいものがあると感じています。また、私の仲のいい友達も、もう大学をやめて写真家を目指してお師匠さんみたいな方へ弟子入りしました。その友達も普通に企業に就職するような大学に入っていたので、個人的にはちょっとショックはありました。でも、選択肢は広いわけですから、そういう道もあるのかなと思っています。

大学の仕組みでしょうか。教職員の方が個々の学生の進路とか、何でその学部に入ったのかというのを知ることができる機会は一切ないです。ゼミでも同じですね。研究のテーマなどの話はします。

職業について考えるきっかけとして、様々な課題などが出されました。そのときは、まだそんなこと聞かれてもよく分からないというのが本音でしたが、今思えばいい経験となっています。

今、大学の三年生になって就職活動を意識し始めて、今までより情報を自分から取り入れていく中で「あっ、こんな職業もあったんだ」と思うようになりました。ただ、「自分がやりたいのは本当にこれだ」とは、まだ自信を持って言えないです。でも、自分の性格なども考えて、単に自分がやりたいというのではなく、「この職業にはこういうことが求められているんだな」、「自分にあっているのは、こういう職業なのか」ということは考え始めました。

**Cさん**..模索中なので、いろいろな分野に動いて、自分が面白そうだなとか、興味があるなと思ったものには、とりあえず参加しています。今、音楽療法に興味があつてこの間、障害者に対する音楽療法のボランティアに参加しました。私自身は障害者の方々に目的を持って接した経験はありません。しかも中学生から成人までの幅広い年齢層と二〇人くらいという大勢の障害のある方たちの中に、一人で入っていったので戸惑いというか、ちょっと言葉では表せない感じがありました。私とコミュニケーションを取ろうと話しかけてくる方もいらして、自分なりに考えて答えては

**Aさん**..私も相談するのはサークルの仲間ですね。特に進路については、サークルの先輩の話を積極的に聞いたりしています。大学のキャリアセンターは、セミナーやインターンシップの時に利用しています。職員の方にそのイベントごとの相談などはしますが、身近な相談となるとやはり先輩が多いです。例えばOB、OG訪問などの情報を得るために大学のイベントなどは利用したいと思いますが、生話というか、具体的な進路の相談ですとやはり自分が知っている先輩のほうが話しやすいです。といっても別にキャリアセンターなどに行きにくいという雰囲気は全然ありません。私の周りで行った人もいますが、でも学生にとって利用の仕方はみんな同じように感じます。具体的には情報を得たり、エントリーシートを添削してもらったり、そういう技術的な話がメインです。また、職員の方と年齢が離れているということは大きいですが、もっと年齢の近い職員の方の経験話も聞きたいですね。

**Dさん**..年齢もありますが、大学の職員の方は、実際に一般企業に就職活動をしていないということが大きいと思います。

**Aさん**..それもありますね。

**Dさん**..民間の一般企業、私立大学だったら民間の会社というジャンルになるかもしれませんが、大学職員の多くの

方は、一般の学生が狙う、いわゆる金融・保険・商社といった企業に就職活動して入社した経験があるわけではないので、率直な意見として、具体性に欠けているように受け取ることがあります。業種別のガイダンスで就職したOBを呼んで面談してくださるようなサービスもありますが、それならば知り合いのつてをたどって希望するほうが早いという印象があります。

**Cさん**..私にとっても、学部の窓口やキャリアセンターの職員の方はやはり遠い存在ですね。キャリアセンターの職員の方が、私が所属するキャンパスには週一日しか来ないというの、そのように感じる大きな要因かもしれません。  
**Fさん**..私もキャリアセンターなどの職員の方には相談しなかったですね。キャリアセンターなどの職員のプロフィール、例えば「ある民間から大学に就職してきた」などが明確に情報として学生に公開されれば、相談しようという気持ちも出てくるかとは思いますが。大学の姿勢の問題だと思のですが。そういえば「学生相談室は水曜日にあります」という案内が、長い間、学生掲示板に貼りっぱなしになっていたこともありまして。このようなことは学生として少し興ざめますね。

**Cさん**..私の学んでいる学問が福祉ですので、就職する場合の業種は特殊というか、少し進路選択の幅が狭まるとい

う感があります。特に一年生のときは「自分は福祉系なんだから福祉の職業」という感じで、自分の進路をすごく決めていましたが、先輩に様々な話を聞いたら、「別にそこまで福祉一途に絞るのではなく、もっと進路を広げてみたら」ということを言われました。

#### 《相談..先生との関係》

**司会**..皆さんの話ですと先輩からのアドバイスが重要な役割を果たしているようですが、就職の問題に限らず何か悩みがあるとき、皆さんと接触する機会の多い先生には相談しないのですか。今は少人数教育やクラス担任制度を導入している大学は多いと思いますし、また、ゼミを通じて先生との関係は近い間柄になっていると思うのですが。

**Cさん**..私はまだゼミが始まってないので、あまり教授と付き合うチャンスがないというか、集団で授業を受けている学生のなかの一人というのが実感です。一年生の前期にクラス分けがありますが、その後ゼミが決まるまではクラス担任といえるものがない時期になります。

**Bさん**..そうですね。私もやはり教授には相談しようとはなかなか思わないです。私が一年生のときの先生方は、半分ぐらいが定年退職する寸前の方々であったという状況も原因の一つだと思いますが、やはり授業でしか会わない先

生に相談するという気持ちはなかなか湧かないのが現実です。また、クラス担任制はありますが、やはり担任の先生といっても週一回程度しか会わないので、クラス担任ではない他の先生と同じ感覚で見えてしまいます。クラス担任制は、学部が異なっても友達をつくりやすくする環境を作り出すという意味では重要なことかと思っています。

**Dさん**..学生からするとそれがすごく重要に感じます。一同..そうですね。

**Bさん**..実は不登校の友達がいて、それを解決するために自分なりに何かしようと思いい、最初は医学的な療法を進めたのですが、受診料が高すぎると言われました。それで大学の学生相談室はどうかと進めたら、友達から全く行く気がないと言われました。考えてみれば不登校の状態にあるのですから、当然、大学に行きたくないのは当たり前のことです。そのうえ、大学の学生相談室はキャンパス内でもオープンな場所があるので入りづらいということもありました。幸いにも今年から大学に来るようになりましたが、それは何か治療したり学生相談室でカウンセリングを受けた結果ではなく「一緒に学校に行こう」と誘うことを続けたことがきっかけであったような気がします。駅で待ち合わせをしたりしました。

**Dさん**..優しいね。

**司会**..ここでも仲間同士の助け合いがキーワードとなっていますね。そうすると大学として「ピアサポート」の重要性を教えたり、自分の大学のピアサポートの状況などの情報を提供する必要があると思いますが、いかがですか。  
**Bさん**..そうですね。大学だと友達が多くないと立ち直るのも大変だと思います。友達があまりいないために大学に来づらくなってしまう人もいます。ですから、大学は学生相談室を設置することも大事ですが、学生が仲のいい友達を多くつくれるような環境を整備するということも大事だと思います。

**司会**..なるほど。ほかの皆さんにもゼミや先生との関係についてもう少し伺いたいと思います。  
**Eさん**..私の場合、ゼミではないのですが、たまたま一人程度の少人数の授業をいくつか履修していたこともあり、先生方が私の顔と名前を覚えてくださって、構内で会うと声をかけていただきました。ですから、学生の皆さんと違って、教員と距離を感じるということはあまりありませんでした。

反対に、距離を感じるの、こういう人数的な問題もあるのかなど。また、私が現役の時に、学科でちょうど先生方から学生と積極的に関わってこういう取組が始まりました。先生方の側から、先生方も参加する合宿や飲み会

などの機会を設けてくださったことも相談しやすいという点で大きかったと思います。それから、私はサークルには所属していませんでしたが、ボランティアで学内の留学生のための日本語授業のサポートをしまして、留学生や他の日本人ボランティア仲間はもちろん、そのクラスの先生ともとても親しくさせていただきました。こう振り返ってみると、恵まれた環境だったと言えますね。

**Fさん**..私は二年生まではサークルに入っていませんでしたが、三年生からゼミが始まり、先生が非常に熱心な方で、勉強のための居残りをしていたら早く帰れなくなってしまう結果的に辞めることになりましたが、その代わりゼミの中では仲間と大いに話をする事となりました。

**Aさん**..一五人くらいのサブゼミという形では受けていました。先生に私の顔を覚えていただいていると思っておりますが、まだ相談する気持ちまでにはなっていないです。先生のほうも積極的に関わってこられる環境にはまだなっていない感じですが。

**Dさん**..先生の個性にもよりますね。私は皆さんと少し違って教授によりますが、結構身近な存在として感じていました。美味しいものをご馳走してくれた経験が割と多かったこともありすが、そういう先生ですと将来の話とかもします。また、先生によってはOBやOGを紹介してくれる

また、労働条件的な問題もありました。退職した会社では女性が産休を取った前例がなかったので、いずれにせよ後々は辞めようと考えていました。産休・育休という制度があっても、前例があるのかないのかでは大きく違ってくるわけです。

**Aさん**..そうですね。そういうのは、例えばその企業セミナーに参加したときに、気になる問題について質問します。ちよつと勇気がいりますが。

**Dさん**..先輩などにも聞きますね。転勤も知りたいです。勤務地や転勤する場合、社宅の有無や費用負担などです。そのような条件を聞きながら選んでいく感じですが。

それに大学で得られる情報は、どこでも得られる平均的な情報如山のように溢れている感じですが、個人が知りたい情報というよりも、一般的な情報のほうが圧倒的に多いので、就職本を一冊読めば八割方書いてあるようなことばかりを大々的に提供しているような印象を受けます。

大学のキャリア・アドバイザーの方は、どこかの会社をリタイアされてから来られている方が多いと思います。ですから、会社の偉い人の感覚は分かると思いますが、学生のことは分からないのではないかと感じを持っています。

私は就職塾に通っていますが、OB、OGが大勢いて、

こともあります。

**Aさん**..オフィス・アワーも制度としてありますが、先生の部屋のドアも閉まっていますので、入りづらい感じがあります。

**Dさん**..そうですね。まだオープンではない感じですが。

**Fさん**..教授とは、三年生のときからゼミ専攻で二年間付き合うことになったこともあり、就職のことはちよつと話しました。その経験からゼミというのは大きい存在ですね。ゼミの先輩や先生と話をして、就職に関して様々なアドバイスをいただきました。私の性格や日常的な行動などの面を見て「こういう業種がいいんじゃないか」など、そんなことも話しあいました。就職情報は仲間、先輩、一般的な情報誌から普通に集めました。

**司会**..確かFさんは転職経験者でしたね。転職した動機はなんでしたか。

**Fさん**..私の場合、採用が決まっても希望の部署に配属されるかは入社するまで分からない状況でした。また、採用面接の時に聞かなかったこともありすが、人事異動があるのかどうかということも全く情報がありませんでした。結果として、入社後の部署は私の希望と全然違うところに配属され、さらに「異動はありません」と言われて、少々困惑し考えてしまいました。

知り合いを紹介してもらえることもあります。アルバイトでも、アルバイト目録ではありますが、社風が分かります。そこまで大学側がサービスを提供するのには難しいことだとは思いますが、本音を言えば学生はそこまでの情報やサービスが欲しいですね。

#### 《大学の情報提供》

**司会**..これまでの話から、仲間や先輩からの情報が重要であるということは十分に分かりました。そこで少し疑問に思うこともあります。大学では学生支援のための制度や具体的プログラムなどについて、皆さんに理解して活用していただくために、ホームページなど様々なツールを活用して情報を提供しています。その情報のなかに職員情報（特に教員のプロフィール等）も公開している大学は多いのですが、それだけでは大学職員と皆さんとの距離感を埋めることの助けにはなりませんか。また、皆さん自身、職員情報をご覧になったことはありませんか。

**Fさん**..毎日のように開いていましたが、職員情報が出ているページは見なかったです。

**Bさん**..私もです。休講情報は毎日チェックしますが。

**Cさん**..私も毎日チェックしますし、キャリアセンターのホームページも見ますが、職員の情報までは見てないです。

Dさん..私も毎日チェックしますが、私の大学のホームページにはそこまで載っていないような気がします。一年生のときのガイダンスでは、施設の使い方などの説明程度で職員の情報については聞いていないような気がします。

Eさん..私もそこまでの説明は記憶にないですね。

Fさん..入学のときに施設全体の概要についての説明を聞きますが、私自身はその後の学生生活を送っているうちに忘れていくことが多いですね。

Eさん..主観的ですが、私がいた大学では、積極的な学生は利用できるものは何でも利用してやろうと、提供されているものはほとんど自分で取りに行くような感じでした。普段は利用しなくても、誰かが必要と感じたときに利用できるようになっていけばいいという感じでした。

Fさん..それには有用な情報でないダメですね。これまでの話と繰り返しになりますが、私の大学にもキャリア支援制度はありましたが、センターには公務員の問題集や就職本などは集めてありましたが、どこにでも手に入る感じの資料でした。

Cさん..私はキャリアセンターにはまだ行ったことがないのですが、福祉関係の就職となると普通の就職活動と多分に異なることがあります。この業界では傾向として欠員募集が多い気がします。ですから、大学がどこまで情報提供

できるか気になるところです。

Bさん..私の仲間で、キャリアセンターなどを利用しているのはまだ私だけです。たぶん、二年生ということもあると思いますが、友達はインターシップについても、これから考えるという感じですが、また、キャリアセンターなどは本格的な就活をする人が行く所というイメージがあり、それで「ちょっと一人では入りづらい」と言う人もいます。また、場所的にも地下の奥まったところにあるので、行くとなれば「わざわざ行く」という感じです。「自分から行動しないと分からないので自分から動けよ」と言う教授がいますが、大学ではそれが当たり前なんですよね。高校時代は全部与えてくれる感じでしたから。ですから、自分で動かなきゃだめということを感じています。

Cさん..私も大学に入って初めて、これまで与えられるのが当たり前という環境ですと育ってきたということを実感しました。

司会..そうすると、大学としては最初の一年は学生に対して高校と同じ意識で取り組む必要があるということですか。

Cさん..そうは思いません。必要だと思つて探せば結構何でもあると思うので、そこまでする必要もないと思います。

Dさん..そうですね。使う人は放つておいても使うし、使

わない人はどうやって使わないと思います。

Fさん..でも、今以上に施設を含めて様々な取組について、もつと宣伝して欲しいと思うことがあります。

Cさん..私も同感です。以前、キャリアセンターの職員の方に、私が所属するキャンパスにもキャリアセンターを設置して欲しいと言ったところ「毎週火曜日に開設していますが、学生が来ませんので」と言われました。そこで再度、学生が知らないのではないですかと尋ねたら「もつと宣伝するべきなのだろうが...」とおっしゃっていました。ですから、もつと宣伝してほしいですね。

Dさん..仲間同士で「役に立った」という口コミなどが一番効果的だと思います。

Aさん..たぶん、キャンパスを先生がよく歩いていて、たまに先生から「ちょっと、その君」みたいな感じで話しかけてくれたらいいのではないのでしょうか。オフィスアワーや何とかセンターなどの制度や施設があつても、その場所に学生が自分から行かなければならないとなると、やはり遠い存在となると思います。

Dさん..先生自身も学生との距離感を感じているのではないのでしょうか。

Aさん..私もそう感じます。何故かというところ、大学内にあ

しげに話しているのをよく見かけ、その風景を見ると先生と学生に距離があるとは感じられないからです。

司会..今日は忙しいところありますがどうございました。

今後、学生支援をどのような意識で取り組めばよいかという今日の課題に関して、皆さんからのご意見は非常に貴重であつたと感じています。学生支援の制度や施設などを整備することは当たり前ですが、一人一人の学生の生の声に誠実に対応することが一番求められていると思いたしました。本当にありがとうございます。